

日中開戦4

南九州蜂起戦

大石英司

Eiji Oishi

立ち読み専用

立ち読み版は製品版の1～20頁までを収録したものです。

ページ操作について

- 頁をめくるには、画面上の▶(次ページ)をクリックするか、キーボード上の▶キーを押して下さい。
- もし、誤操作などで表示画面が頁途中で止まって見にくいときは、上記の操作をすることで正常な表示に戻ることができます。
- 画面は開いたときに最適となるように設定してありますが、設定を変える場合にはズームイン・ズームアウトを使用するか、左下の拡大率で調整してみてください。
- 本書籍の画面解像度には1024×768pixel(XGA)以上を推奨します。

地 挿
図 画
平 安
面 田
惑 忠
星 幸

目次

プロローグ	13
第一章 孤立	20
第二章 塀の中の協力者	41
第三章 ほっけもん	68
第四章 県境の戦い	97
第五章 切通の戦い	124
第六章 白い絨毯	152
第七章 警官の戦い	180
第八章 背水の陣	207
エピローグ	220

登場人物紹介

日本

《防衛省》

〈特殊部隊サイレント・コア〉

どもんこうへい
土門康平 二佐。ようやく傍若無人の上司、同期と離れ、心機一転するつもりだったが？

原田小隊

はらだたくみ
原田拓海 一尉。元は小牧基地の教育隊所属の救難教育隊救難指導員。土門に一本釣りされ小隊長に任命される。

はたけともゆき
畑友之 曹長。分隊長。冬戦教からの復帰組。コードネーム：ファーム。

たかやまけん
高山健 一曹。分隊長。西方普連からの復帰組。コードネーム：ヘルスケア。

おおしろまさひこ
大城雅彦 一曹。土門の片腕として活躍。コードネーム：キャッスル。

まちだはるお
待田晴郎 二曹。地図読みのプロ。コードネーム：ガル。

みずのともお
水野智雄 二曹。元水泳の強化選手。分隊長に出世した。コードネーム：フィッシュ。

たぐちしんた
田口芯太 三曹。部隊随一の狙撃手。コードネーム：リザード。

ひがひろみ
比嘉博実 士長。ドンパチ好きのオキナワン。田口の「相方」を自称。コードネーム：ヤンバル。

あづまだいき
吾妻大樹 士長。山登りが人生だという男。コードネーム：アイガー。

姜小隊

かんあやか
姜彩夏 三佐。元は韓国陸軍参謀本部作戦二課に所属。司馬に目を付けられ、日本人と結婚したことで、部隊に引っ張られる。

うるしげらたけとみ
漆原武富 曹長。姜小隊ナンバー2。コードネーム：バレル。

ふくとめだん
福留弾 二曹。鹿児島県出身で、部隊のまとめ役。コードネーム：チエスト。

みどうそうま
御堂走馬 二曹。元マラソン・ランナー。コードネーム：シューズ。

い いかける
井伊翔 二曹。姜小隊のITエンジニア。コードネーム：リベット。

かわにしまさふみ
川西雅文 三曹。元Jリーガー。コードネーム：キック。

あねこうじ さねあつ
姉小路実篤 三曹。父親はロシアビジネス界の大物。コードネーム：ポーンズ。

ゆ ら しんじ
由良慎司 三曹。西方普連から引き抜かれた狙撃兵。コードネーム：ニードル。

あかばねたくま
赤羽拓真 士長。フィールドでのゲテモノ食いに長ける。コードネーム：シェフ。

おだ ぎりしやう
小田桐将 一士。タガログ語を話せる。コードネーム：ベビーフェイス。
あ び る あきら
阿比留憲 三曹。対馬出身。西方普連から修業にきた。コードネーム：ダック。

訓練小隊

あま り ひろし
甘利宏 一曹。元は海自のメディック。生徒隊時代の原田の同期。

〈陸上自衛隊 西部方面普通科連隊〉

なかむらひろみ
中村弘臣 一佐。西方普連を率いる。

し ば ひかる
司馬光 二佐。西方普通科連隊付き教官に異動となった。

おおきこかつひろ
大迫勝弘 二佐。副連隊長。鹿児島県出身で、地元の私大から自衛隊に入った。

きんじやうきとる
金城哲 一尉。偵察班を率いる。一般大から自衛隊に入り、たちまちレンジャー資格を取った沖縄県人。コードネーム：クイナ。

〈第一二普通連隊〉

たなべしんご
田辺慎吾 二尉。工学部出身の二五歳。小隊を任されたばかり。

うしじましげき
牛島茂樹 一曹。小隊長のお守り役。「シゲさん」と呼ばれ慕われている。

〔海上自衛隊〕

第一航空群

その たろう
曾野太郎 海将補。第一航空群司令。

わかすぎしやう
若杉秀 一佐。作戦幕僚。

わ こう え み
若生詠美 三佐。情報幕僚。生まれも育ちも鹿屋。父親はP-3C乗り。娘も防大に入りP-3C乗りになった。

〔航空自衛隊〕

みや た ひろゆき
宮田弘幸 空将補。航空自衛隊第五航空団司令。垂水出身で、鹿屋の高校に通って防大に入る。池辺真とは幼なじみ。

いけ べ まこと
池辺真 空曹長。要撃管制官。

第三〇一飛行隊

わきざかしんご
脇坂慎吾 二佐。第三〇一飛行隊隊長。

まん だ あきら 一尉。兵装システム士官。

[陸上幕僚監部]

あしはらよしみち 陸将。陸上幕僚監部幕僚副長。

やまぐちいさみ 山口諫実 二佐。装備部需品課。一般大卒の經理畑。福江島出身。

[海上幕僚監部]

よないはるお 米納晴郎 海将。海上幕僚長。

[航空幕僚監部]

ふじさわかずき 藤沢一輝 空将。

《内閣》

あそうしろう 阿相士郎 副総理兼財務大臣だったが、岸部真之輔きしべしんのすけが総理を辞任後に新総理となった。音無に促されて、サイレント・コアの設立に関わっている。

ごん だ ひとし 権田均 警視正。総理秘書官。

かとうしやうへい 加藤昇平 官房副長官。警察庁出身。

う ごん きみはる 右近公春 内閣官房。

《外務省》

くしだ ふみお 榎田史雄 外務大臣。

いしかわしのぶ 石川恕 中国課長。

《警察庁》

おおいずみまなぶ 大泉学 警視監。警察庁次長。

かあいてつや 河相鉄也 警視正。国家安全保障局に派遣中。右近公春とは学生時代からの付き合い。

ば ば い じ 馬場啓治 警視。長崎県警本部管理官。

さきはらけいすけ 笹原啓介 警部補。警視庁特殊急襲部隊副隊長。

み き た けい 三木谷啓 警部補。特殊犯捜査第二係。人質交渉人。

〈熊本県〉

うらしまわつみ 浦島睦実 熊本県知事。農協職員として渡米中に学問に目覚め、ハーバードで博士号を取り帰国した変わり者。

〈福岡県〉

おがわひろし 緒川博 福岡県知事。元内閣広報官。

《鹿児島》

ありむらたいぞう
有村泰蔵 鹿児島県知事。戦闘機パイロットになりたくて、防衛大学校に入った。警戒隊出身。

たにかわしんじ
谷川真治 元一尉で秘書課に所属。

中国

〔政治委員〕

ファンチエンチオン
方建中 少将。戴志強中將とは子供の受験で確執があった。

タオチンチエン
陶景臣 大佐。政治委員補佐。南海艦隊から異動してきたばかり。

《海軍》

〔東海艦隊司令部〕

タイチイア
戴志強 中將。東海艦隊司令官。清廉潔白な人物。

スンルンシオン
孫潤生 少将。東海艦隊参謀長。艦隊ナンバー3。

カンウンホア
康文華 大佐。東海艦隊情報参謀。

シュイチョンピン
徐正平 大佐。作戦参謀。

フホソウン
付弘文 大尉。紅稗型ミサイル艇2255号の艇長。四川省の山奥出身。

モウ イリン
孟晓霖 大尉。紅稗型ミサイル艇2245号の艇長。

レン アービン
任亜平 中尉。紅稗型ミサイル艇2245号の副長。ベテラン機関長。

〔陸戦先鋒第44旅団〕

クウチイアチイア
顧家強 大佐。旅団長。

ソンチイミン
宋啓明 中佐。陸戦先鋒第44旅団・旅団司令部付き中隊を率いる。

ルオチイエンユイ
羅天宇 六級士官。下士官を束ねる。

《陸軍》

〔第16空挺軍団〕

トゥヨシシン
杜永新 大佐。第16空挺軍団第145空挺連隊を率いる。

シャオイエンチウ
邵彦祖 中佐。副連隊長兼政治将校。

スンリイリイ
孫麗麗 中佐。作戦参謀。事実上のナンバー2。司馬光二佐の因縁の相手。

リュチイエンフエイ
盧劍飛 中佐。連隊情報参謀。

イエンシユエハイ
嚴学海 少佐。第一中隊を率いる。

旅団付き攻撃ヘリ部隊

タンチュン

唐君 中佐。飛行中隊を率いる。杜永新大佐とは、過去何度か演習で一緒に組んだことがある。

ツワンハオテイエン

曾昊天 大尉。連隊本部付き偵察小隊を率いる。

リュエユイタン

呂語堂 中尉。Z-19 攻撃ヘリコプター“黒旋風”後席操縦士。

ウエイムウツァン

章慕青 少尉。編隊に参加した兵士で唯一の女性パイロット。

モェリィチワン

莫立城 三級士官。

[第七戦術機動師団]

ホウレイ

何雷 少将。第七戦術機動師団を率いる。

チアンチウオ

江卓 大佐。参謀長。

チュウチン

朱琴 中尉。大学出の女士官で、通訳を担当する。

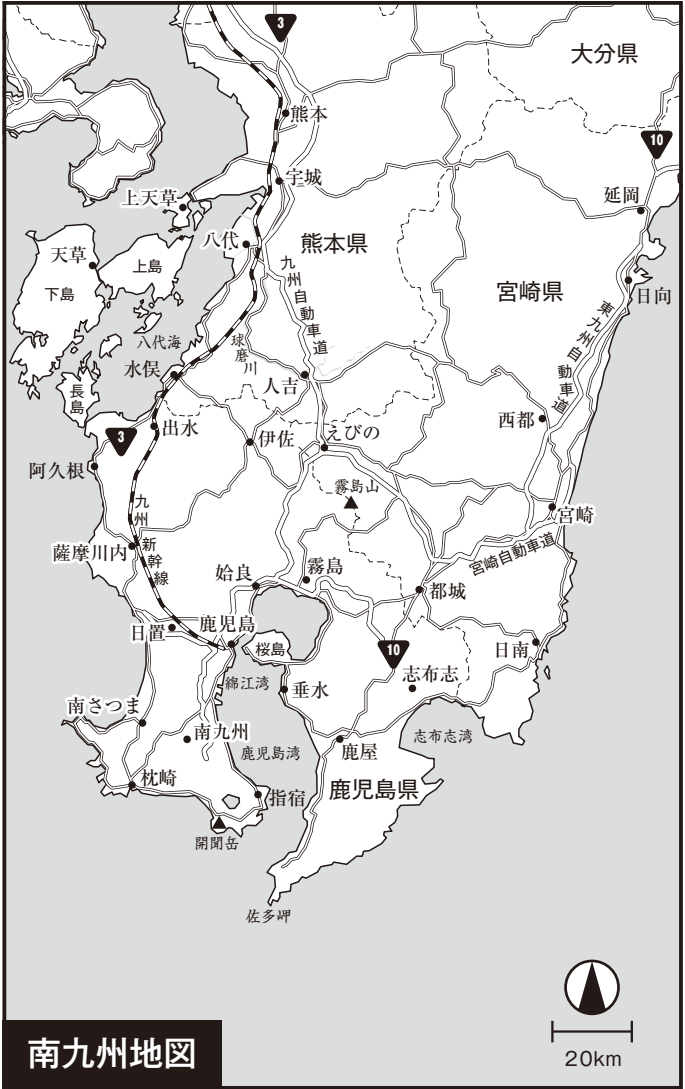
《空軍》

バイウエイトン

白衛東 空軍中将。中国空軍九州軍管区司令官。

ロンホイ

龍輝 中佐。



南九州地図



日中開戦4 南九州蜂起戦

プロローグ

そこは長閑な港町だった。

護岸の上にコンテナが積み上げられた湾は、幅

四〇〇メートル、奥行きは四キロにも及ぶ。

球磨川の湾口にある港は、以前はフェリーも発

着していたが、今は大陸や韓国との間に、細々と

貨物船の定期航路があるのみだ。

それでもここ、八代市は人口約一三万の熊本県

第二の都市だった。

また鹿児島や宮崎とを結ぶ高速道と、九州新

幹線、鹿児島本線が、ここでほぼ一本に束ねられ

る。南九州の大動脈であり、ここを抑えられると、

少なくともここから南の鹿児島県は、生活物資の

流通の八、九割が滞ることになるのだ。

第七戦術機動師団を率いる何雷少将は、ペンキ

も新しい一万五〇〇〇トンの豪華客船のブリッジ

の左舷側ウイングに佇み、街の景色を見ていた。

「阿蘇山はどこだね？」

「もつと北なので、ここからは見えないかと」

朱琴中尉は、日本で買ったスマートフォン

ワンセグ画面から視線を上げ、上官連中の最後尾

から答えた。

「中尉、声が遠いからもつと近くに来い。それと

も、君と話をするために、副官に任命する必要が

あるか？ 誰も、大学出の女士官が出世の競争相

手になるなんて思わないさ。なあ、参謀長？」

「そうは言っても、彼女を將軍の隣に立たせて、狙撃的にするのもどうかと思いますが……」

と参謀長の江卓大佐チイアンチョウが困った顔をした。

「日本人は、女子供から先に狙撃するようなことはしないだろう？　だとしたら、ちゃんと指揮官を先に狙うさ。なあ、中尉」

「はい、將軍。それには同意します」

朱中尉は、右手にスマホを持ったままで、洪々しゅふしゅ前へ出ながら答えた。

音声は、イヤホンで聞いているようだ。

「それにしても、どうして君はここにいるんだね？　日系の企業にでも、就職口はあっただろうに」

「自分は、要領が悪いんです。米留を希望しましたが、奨学金付きの椅子いすはすでにコネをもつ者で埋まった後で、日本に行くしかありませんでし

た。就職をしようと思っても、釣魚台ディアオユータイの騒動で日系企業は皆撤退し、逆に軍から対日戦略部を拡充するから党に尽くせと、有無を言わさず……でした」

「それは残念だったな。九州には来たことがあるかね？」

「留学時代、長崎ながさきには行きましたが、南九州までは来ておりません」

「自衛隊の出迎えは？」

「無いと思います。この辺りの部隊配備は、手薄ですから」

「日本は、西方重視で九州の部隊を増強したんじゃないかったのか？」

「それは、口だけです。そんな余裕は、日本にはありませんから。ここより南にいるのは、歩兵三個連隊と工兵部隊のみです。戦車は一両もいません」

彼らが乗るフェリー「オーシャン・グレース」(一五〇〇〇トン)は、もとはギリシャから発注されたものだ。

内装はまだで、白く塗られた船体にも、船名すら入っていない。

その船の前方に、コルベット艦が一隻進んでいる。埠頭に上陸して舳を受け取るためのコマンドが、ゾディアックで発進していた。

「さて、中佐。君の上海雑伎団が役に立ってくれれば良いがな……」

「全くです、將軍。せっかく佐世保に上陸してひと暴れできると期待していたのに、ここは平和そのものだ……」

特殊部隊を率いてきた沈天來中佐が、退屈そうに言った。

「まあ、そう言うな。空挺は苦勞しているらしいじゃないか。交戦は無いに越したことはない。平

和裡に占領できるなら、それで良い」

上陸したコマンドが、フェリーから投げられた舳を受け取る。

だが、最新鋭のスラスターを装備した大型フェリーは、その舳を頼ることなく、自力で静かに接岸した。

「しかし將軍、われわれの目的は何ですか？ 中尉が言うように、ここにはたいした部隊はいない。そもそも敵の戦力は、佐世保を守るために、長崎に集中しているはずです。ここにわれわれが第二戦線を構築したところで、敵部隊が戻ってくるとは思えません」

「長期的な占領を考へてのことであるし、現に、上陸部隊は苦戦が続いている。今以上の増援を阻止するためにも、第二戦線の構築は重要だ」

と將軍は、朱中尉が持つスマホの画面に視線を向けながら言った。

関門橋かんもんきょうの上空から、報道ヘリが生中継している映像映像が流れている。

橋は、ほぼ中央付近で崩落していた。路面は七〇度近く傾かたむき、渋滞した車が今にも落ちそうになつている。現に、生中継しているそばから海面へと滑すべり落ちていく車があつた。

中国軍の大規模なミサイル攻撃の結果だ。

「戦果を日本のテレビ・ニュースで知るといっても、変な時代だな。何と言っている？」

「関門橋はご覧の通り、崩落。新幹線と在来線のトンネル、車道用トンネルも、全て破壊されたと繰り返しています。ただし、事実かどうかはわかりません。われわれが事実として確認できるのは、今のところ、この橋の崩落だけです。九州が孤立こりつしたことは間違いないでしょうが」

「それなら問題ない。情報部から、全てのトンネルの入り口を作戰通り潰したと報告が届いている。

九州は日本から完全に孤立した。正直、誰へいたんが兵站の責任を負うのかは知らないが」

と参謀長が言った。

「私は逆だと思うぞ。今の日本は、日用品も加工食品も、その大部分を大陸に依存している。だから九州にはこれまで通り供給されるが、それ以外の日本には、その流通が絶たれるということだ。不自由な暮らしを強いられるのは、むしろ九州以外の日本人だろう。どうか、中尉？」

「はい。われわれは、九州の住民が必要としている物資のほとんどを供給できます。品質にさえ拘こだわらなければ。ただし、九州の総人口は、上海のそれに僅かに足りない程度です。一〇〇〇万を超える人間を食べさせるのは、大変でしょう」

「しばらくは、贅ぜい沢は捨ててもらおうしかないな。ところで、この島は何があるんだ？ 石油石油が出るとも思えないが」



「熊本、宮崎、鹿児島、いずれも農業がメイン産業です。鹿児島の方には確か、金鉱山があったと記憶しています。その昔、大陸との密貿易で栄えた、地方都市です」

閉鎖された旅客船ターミナルはもちろん無人で、防災無線のスピーカーが、何事かを繰り返している。

「何を喚わめいているんだ？」

「はい。ゲリラが上陸したので、住民は外に出ず警戒するように呼びかけています。テープの音声で、ここで言うゲリラは、本来は北朝鮮のゲリラを想定していたのですが……」

タラップが二本降ろされ、完全武装の歩兵が埠頭に降り立つ。整列する間もなく、無人のターミナルを占拠した。

後部からは車両用のランプが降ろされ、軍用車両が続々と上陸する。

「五分以内に、対空車両の火を入れる。空挺のよな失敗は犯さない。一分でも早く街中へと入り、住宅街に布陣するぞ。同時に、幹線道路と鉄道を遮断する。内陸部にも、道路はあるだろうか？」

將軍は、後半を中尉に質した。

「はい。高速並とはいえませんが、戦車が走れる立派な道路があります」

「われわれが指揮所を開設することになる合同庁舎は、どの辺りになるんだね？」

「ここからほぼ東、直線距離で七キロの地点です。高速と鉄道のすぐ近くとなります」

「七キロはちよつと遠いな。敵が来る前に、さつさと移動して占領しよう。参謀長は斥候を急がせてくれ。無人航空機UAVによる偵察も切れ目なくな。そこに、南九州占領司令部を置く。機動部隊の名に恥じない動きを見せなければ、後々、予算をもらえないぞ！ さあ諸君、仕事だ！」

ここは、海面から湯気が立ちそうなくらい暑かった。気温はおそらく三四度を超えている。船から下りて護岸に立つと、コンクリートの地面の照り返しが強烈だった。

朱中尉は、どこかで日焼け止めを買わなきゃと考えていた。

きつと半日も経たないうちに、兵士達が国への土産物へと、スーパールの棚を空にすることだろう。いや、それより、レイプや強盗、住民被害を出さなければいいのだが……。

師団長の話では、この部隊は、国際連合平和維持活動^Pを睨んで編制された精鋭機動部隊で、英語教育を施し、それなりの国際常識も教え込んでいくという話だった。

しかし、兵士のほとんどは、まだ童顔の若者たちで、平均年齢も自分より若い。

占領軍として威厳を持って住民と接するという理想は、この暑さの中では、三日と保たないだろうと思った。

第一章 孤立

長崎市の中国総領事館が乗っ取られ、同時に、長崎空港から離陸直前だった旅客機がハイジャックされた事件から、すでに六日が経過していた。

中国副首相夫人がいた総領事館は、太子党の子供ら修学旅行生を乗せた旅客機と同時刻に爆破され、子供たちだけで一〇〇名以上が犠牲になった。犯人グループの検挙と引き渡しを求める中国は、五島列島ごとう福江島ふくえじまに上陸して島を占拠した後、いよいよ長崎へと歩を進めた。

すぐに長崎県知事と長崎市長は、連名で非武装都市宣言を行ったが、しかし知事は非業ひごうの死を遂げ、戦闘も止むことはなかった。

中国軍は、大村湾おむらを横断して長崎空港を占拠。一方、日本側は、空港を砲撃して中国軍をおびき出すことに成功し、その戦力を削いでいた。

自衛隊は、一個飛行隊を超える戦闘機と武装ヘリを叩き墜とし、五〇〇名を超える人民解放軍の陸兵を叩きつぶしたが、それでも中国軍は東回りに北上し、米軍基地がある佐世保へと確実に迫っている。

そして中国軍は、犠牲を払ったことのお返しとして、九州と本州を結ぶ大動脈全てを攻撃し、分断にかかってきた。

具体的には、新幹線と在来線のトンネル入口を、

★ご覧いただいた立ち読み用書籍はPDF形式で、作成されています。この続きは書店にてお求めの上、お楽しみください。